

「道の駅」整備計画の進捗状況について

森田 常夫議員

・質問 次の点について伺いたい。

道の駅予定地周辺の交通量及び競合店舗の状況はどのようか。

地域振興施設の業態、業種及び運営方法をどのように考えているか。

地域振興施設の建設費はどの程度を予定しているか。

地場産品として、どのような生産物、製品等を考えているか。また、岡部町や大利根町の道の駅について、どのような感想をもっているか。

・答弁（都市整備部長）
交通量、競合店舗の有無などのマーケティングに関する調査は、現在のところ実施していないが、平成十一年に実施した交通センサスによると、上新郷市内での国道百二十二号線の交通量は、二十四時間二万台という調査結果が出ている。また、沿線に同様の計画がないことを考えると、多くの利用者が望めるものと考えている。

・答弁（都市整備部長）
交通量、競合店舗の有無などのマーケティングに関する調査は、現在のところ、羽生の農産物や特産物の販売と羽生の食材を活用した飲食機能を導入する予定であり、これらの運営は、公益法人、第三セクター、民間のいずれかに委託することを想定している。

この実施計画の策定に当たっては、工事のコスト削減に取り組み、可能な限り建設費を抑制していきたいと考えている。

具体的な販売品目は、今後の運営計画策定のなかで検討していくことになるが、岡部町や大利根町の道の駅は、地場産品の漬け物やコシヒカリなどを中心に大変な賑わいを見せており、一つの成功事例と考えている。

今後、これらの例を参考にし、具体的な販売品目の検討をしていきたい。

・安全で安心なまちづくりについて

市単独での焼却炉建設計画について

河田 晃明議員

・質問 彩北広域清掃組合での広域ごみ処理施設の計画を改め、市単独での焼却炉建設をすべきであると考えているが、見解を伺いたい。

また、予定されているイオンショッピングセンターのこみの収集対策と焼却能力を試算しているか、伺いたい。

・答弁（経済環境部長）
当市は、ダイオキシンの発生を抑制し、環境の保全を図ることを目的に彩北広域清掃組合に加盟し、事業を推進してきたところである。

彩北広域清掃組合の現計画では、羽生市の負担額は約六十億円で、国庫補助金、起債

等を除いた一般財源は、約六億円、起債についても約二分の一が交付税により還元される予定になっている。

一方、羽生市が単独で施設整備を行う場合、補助金や起債の対象とならないため、全額市単独費となりかねない状況にある。

しかし、彩北広域清掃組合も機種選定や市町村合併問題に関連し、さまざまな課題があることも事実である。

今後は、国・県、構成市町村の動向等を含め、慎重に対

応していきたいと考えている。

また、イオンショッピングセンターのごみ収集対策については、イオングループ自体がごみの再資源化に力を入れ

その他の質問

・社会規範の強化と教育現場に競争原理を
・米の価格と農地の集積・団地化について
・利根川・中川の治水対策と河川災害について

・地域支援で羽生水郷公園の早急な整備を



羽生市清掃センター、昭和58年に建設